

東京オリンピック・パラリンピック大会

ルーマニアのホストタウンとして
さらに交流を深めていきます

平和や環境など地球規模の課題を解決するには、外国との交流などを通じて友好関係を築くことが大切です。また、異文化への理解を深める国際交流事業への参加は、青少年の教育にも大きな意義があります。武蔵野市はルーマニアのほか、アメリカ・中国・ロシア・韓国など世界6都市、国内では9市町村と友好都市として交流しています。これまでの市の取り組みが認められ、ルーマニアのホストタウンに決定しました。

武蔵野市は

2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける
ルーマニアの「ホストタウン」に決定しました。

ホストタウンとは？

海外の参加国・地域をおもてなしする自治体です

政府は、東京オリンピック・パラリンピック大会開催に向け、全国の自治体と参加国・地域の交流を推進しています。それらの取り組みを行うため、国の登録を受けた自治体が「ホストタウン」です。その活動は自治体により異なりますが、相手国と人的・経済的・文化的な交流を図り、相互に応援しながら大会を共に盛り上げていくことが主目的になります。第1次登録では都内は武蔵野市と調布市（サウジアラビア）が、第2次登録では世田谷区（アメリカ）、青梅市（ドイツ）、町田市（南アフリカ）が登録されました。

COMMENT

日本の文化が大好きです

私はまだ日本へ行ったことがありませんが、本を読んだり、アニメを見たりして、少しずつ日本のことが分かるようになりました。ルーマニアとは違う物ばかりで、日本の文化はとても面白いと感じています。色々なことを経験して、日本のことをもっと知りたいです。

日本語・日本文化招聘研修生

ザンフィル・コリナさん

武蔵野ブラショフ市民の会の招聘研修生として8月末に初来日予定。来日後はルーマニア語講座の講師を務める予定。

問：武蔵野ブラショフ市民の会

☎0422-43-4421（平井）



日本人と通じ合える国

市の嘱託職員としてブラショフ市の日本武蔵野センターへ来て早一カ月。違和感なく暮らせています。人々が礼儀正しく、謙虚で気遣いができる。そんな日本のような国がヨーロッパにあったのです。価値観とは言葉を超えるものだと感じながら日々過ごしています。

日本武蔵野センター 木村満里子さん



ルーマニアは、黒海に面する東ヨーロッパの国。首都はブカレスト、人口は約2000万人。1878年に独立し、1947年に王制を廃止、1989年にルーマニア共産党の一党独裁を廃止した。



なぜ「ルーマニア」？

ルーマニア国ブラショフ市は1992年から
武蔵野市と友好交流を続けています

1991年、市出身でルーマニア国立交響楽団の指揮者だった曾我大介氏が、資金難にあえぐ楽団への支援を市に要請しました。翌年、武蔵野市ほか3市が共同で同交響楽団を日本に招聘したことで、現在も続く両市の交流が開始。今後もブラショフ市との交流を基盤に文化・スポーツの相互交流、友好関係をさらに深めていきます。

1991年	市が楽団支援の要請を受ける
1992年	楽団来日、市民による「武蔵野ブラショフ市民の会」結成
1998年	ブラショフ市内に「日本武蔵野交流センター」が開設
2003年	センターが規模拡大し移設、「日本武蔵野センター」に改称
2015年	邑上市長がブラショフ市を訪問、「第三基本協定」を締結

日本武蔵野センター

日本語教室や図書館の開設を始め、ブラショフ市内で日本の行事や文化を体験できる拠点になっています。



問：交流事業課 ☎0422-60-1806